

■自由投稿

「力士の給与」

梅木隆志（16期）



相撲に興味をもって場所ごとにテレビ機で観戦している方は・・・、特に隠岐出身の「隠岐の海」が幕内にいるので・・・、多いと思います。

プロ野球の選手の年俸は推定ですがマスコミ報道などで知ることができますが、力士の給与・手当等・報奨金・優勝賞金・懸賞金についてご存じの方は少ないと思います。下記にその概要をまとめてみましたので、興味ある方はご覧ください。

（冊子「大相撲の経済学」から、金額等は現在値）

◎給与：

1、横綱：約300万円、大関：約250万円、三役：約180万円、平幕：約140万円、十両：約110万円

◎ボーナス：

9月と12月に給与の1か月分。（幕下以下の力士には、給与はないが場所ごとに手当などがある）

◎本場所による手当等：

1、出張手当：十両以上（地位により異なる）

3月（大阪）・7月（名古屋）・11月（博多）の地方場所（要は二場所に1回）に35日分×【宿泊費（約3000円～9000円）＋日当（約1000円～3000円）】が支給。

2、本場所特別手当：小結以上

横綱：20万円、大関：15万円、関脇・小結：5万円、

*給与がない幕下以下には5万円（幕下）～7万円（序の口）の手当がある

3、報奨金：十両以上

「持ち給金（過去の下記金額の累計）×4000」の金額が年6回の場所毎に貰え、第2の給与とも言える。

*「持ち給金」の定義：十両以上での場所ごとの勝ち越しの星数（勝ち数マイナス負け数）1個につき0.5円＋金星一つにつき10円＋幕内優勝30円（全勝の場合50円）

*負け越しの場所があってもマイナスは無く、持ち給金が下がることはない

*金星を1個取れば、現役中、休場しない限り年24万円は貰えることになる

*ちなみに千代の富士の引退前の場所の報奨金は約3500万円（年間にすれば、6場所で約2億1千万円）

◎優勝賞金：

幕内：1000万円、十両：200万円、幕下：50万円、三段目：30万円、序二段：20万円、序の口：10万円
（幕内の「殊勲賞・敢闘賞・技能賞」：各200万円）

*幕内優勝には、副賞としてスポンサーから金一封及び各種賞品がある

◎懸賞金：

1本6.2万円（内訳：力士の受取額3万円、協会事務費0.53万円、力士の所得税の預かり金2.67万円）

◎以上が「力士の給与」で、その他、「相撲部屋の収入」、「年寄の給与」については下記のとおり。

***相撲部屋の収入：**

- ・場所ごとに部屋維持費：弟子一人、115,000 円
- ・場所ごとに稽古場経費：弟子一人、45,000 円
- ・力士養成費：幕下一人、毎月 70,000 円
- ・養成奨励金：十両一人、年額 114 万円、平幕一人、年額 126 万円、三役一人、年額 156 万円、大関一人、年額 216 万円、横綱一人、年額 276 万円
- ・上記以外にタニマチからの収入がある。

***年寄（年寄株数：105）の給与：**

- ・理事：2135 万円、監事：1892 万円、委員：1539 万円、主任：1326 万円、平年寄：1236 万円

以上

相撲界は力士総数約 650 人で、上記のように十両以上の約 70 名しか給料が出ない厳しい世界であり、「地位は実力次第」と昔から言われている。

しかし、一方で、プロ野球のような戦力外通告や年俸の大幅ダウンもなく、十両以上を長年確保し、毎場所勝ち越せば「持ち給金」が増え、給与が上がる仕組みであり、年功序列的要素も大きい。

我らが隠岐の海も 36 歳と最年長クラスで、「持ち給金」もかなりの額と推定されるが、幕内で相撲が取れる以上は、まだまだ引退しないのではないかと思いつつ応援をしている。

私もいつもテレビ観戦しながら、取り組み前にそれぞれの持ち給金がテレビで映し出されれば、新たな興味も湧くのかな、などと考えているが、この投稿が、相撲ファンの皆様の何かのご参考、新たな楽しみ方につながれば幸いである。